

1974年(昭和49年)、1992年(平成4年)以来、3回目の熊本県開催になりました。第63回全日本教職員バドミントン選手権大会を、総合優勝という形で終了することができたことを大変嬉しく思っているところです。

総合優勝制度ができて今年で24年目。熊本県は、2006年、2007年に連覇して以来の3回目の優勝でした。

地元開催ということもあり、昨年の北海道大会が終わってから、大会の準備に取りかかりました。同時進行ではありますが、地元開催という利点を生かし、まず参加点で1位を取ろうと県内のバドミントン愛好者への呼びかけをしていきました。結果的に、団体全種目への出場、個人では87の出場ができ、参加点だけで、100点を超えることができました。

今年度の入ってからは、定期的に練習会を実施し、相互の親睦を深めながら、強化を図りました。総合得点246点は、歴代最高得点ではないのかなと密かに喜びを噛み締めているところです。本大会には、全国各地から、選手並びに多くの関係者の皆様にお越しいただき、無事、大会を終えることができましたことを大変嬉しく思いますとともに、ご協力を賜りました皆様に心より厚くお礼申し上げます。

大会では、予想されたことですが、会場へのアクセスの不便さや近隣の宿泊施設の不足にもかかわらず、時期の関係や新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったことなどもあってでしょうか、例年よりも多くの参加をいただきました。急遽、空調施設のないサブアリーナも使用しての大会運営となり、選手の皆様には、多大なご負担をおかけいたしましたことに改めてお詫び申し上げます。

8日(木)からの大会は、今回から団体のハイパーエイジ枠を各都道府県2枠に増えたこともあり、初日から大いに盛り上がりを見せました。個人戦からは、会場を2会場にして実施しましたが、それぞれの会場で、日頃は、子供達の育成・強化等に努められ、自らの練習はままならない状況もあると拝察いたしますが、熱の入ったプレーが各コートで繰り広げられ、見ている方々へ大きな感動を与えていただきましたし、熱が入った応援も見応えがありました。

本大会は、教育に携わりながら、バドミントンを愛好する方々が集う機会であり、20代から80代の方々まで、幅広い年代層からご参加いただいております、旧交を温めておられる様子も見受けられました。大会運営をしていた私には、玉名ラーメンのお店についての情報を多くの方に尋ねられました。玉名、山鹿を始め、熊本県での観光を楽しまれた方々も多くいらしたのではないかと感謝いたしております。

終わりになりますが、60年以上も続く本大会が、ますます発展されることを願ってやみません。熊本県教職員バドミントン連盟といたしましても、これを機に、再度、組織の充実・発展を図り、子供達の育成・強化に寄与し、自分達も自らのバドミントン人生の充実させてまいりたいと考えています。

【熊本県教職員バドミントン連盟 理事長 三次 圭介】